

にしお本まつり

あなたも和装本を作ってみよう

和装本とは、日本の伝統的な装丁の本のことです。

ひとくちに和装本と言っても、長い長い歴史の中でさまざまな形がありますが、

その中で、江戸時代にもっともたくさんつくられた「四つ目綴じ」の本を作ってみましょう。

今回つくるのは、A5サイズの「四つ目綴じ」の本です。

用意する材料

- ①表紙用の和紙（240 mm×175 mm）2枚 ★包装紙や紙袋でもOK
- ②見返し用の和紙（205 mm×140 mm）2枚 ★コピー用紙でもOK
- ③本紙用の和紙（A4サイズ）10枚 ★コピー用紙でもOK
- ④元結紙（本来は紙縫）1本 ※適度な長さに切って使います
- ⑤糸（本のタテの長さの3倍より少し長いくらい）1本
- ⑥題箋 1枚 ※本のタイトルを書く紙 無くてもOK

用意する道具

- 型紙用のボール紙（菓子箱のふたなど、厚手の紙）
- はさみ
- のり
- 裁縫用ヘラ（バターナイフなど、折り目がつけられるもの）、
- 千枚通し（目打ち）
- 針（刺しゅう針など、穴が大きいもの）、
- クリップ（目玉クリップやダブルクリップ、洗濯ばさみなど挟めるもの）2個

あると便利なもの

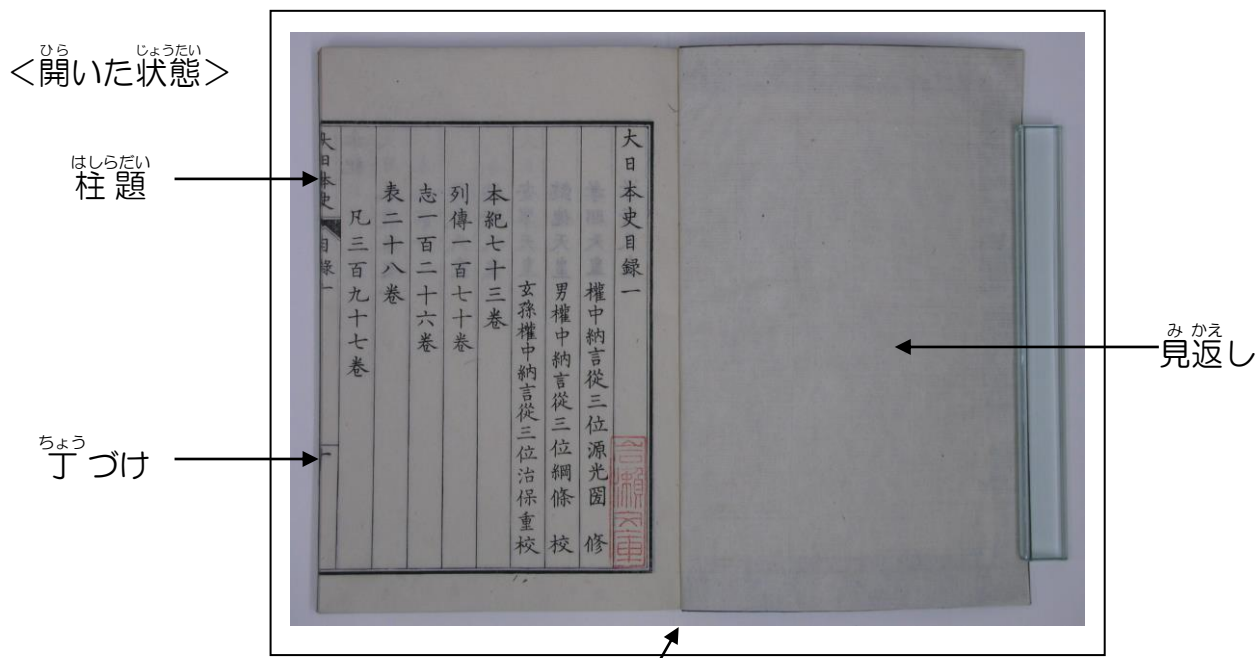
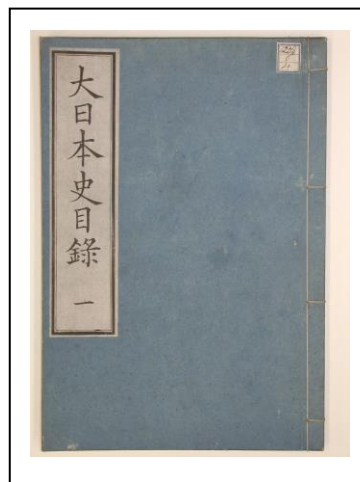
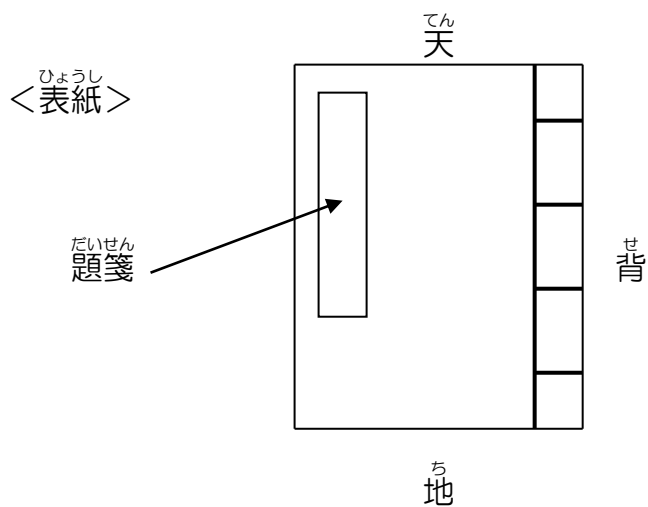
- 作業板（不要な雑誌など、机を傷つけないために）
- 広告チラシ（糊などで机が汚れないように）
- ウエットティッシュ

にしお本まつり HP

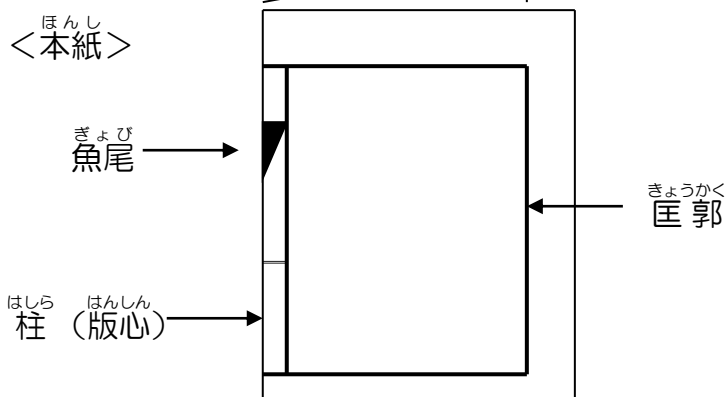


はじめに

よめとほんめいしょうし
四つ目綴じの本の名称を知ろう。



のど



I. 型紙をつくろう

ボール紙（菓子箱のふた等）を用意して、説明書10ページの図をもとに型紙を作ります。

II. 本紙を折ろう

本紙用の紙を二つ折りにします。（「I. はじめに」の〈本紙〉を参照）
ヘラで押さえると、よりきれいに折ることができます。

III. 表紙をつくろう



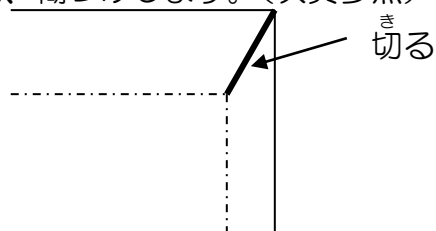
- ① 表紙用の紙のウラに型紙をあてます。背にあたる辺を1 cm程度あけて、天と地はそれぞれ均等になるようにあてます。

型紙の位置が決まったら、四辺をヘラで引いて筋をつけ、内側に折ります。

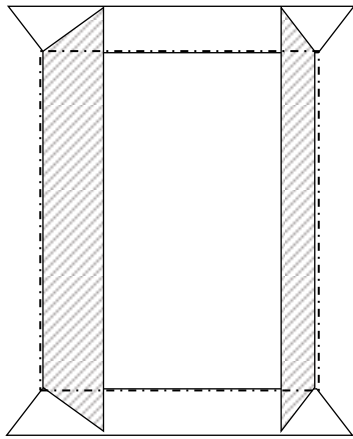
※折り目をヘラでぎゅっと押さえて、しっかり折っておきましょう。



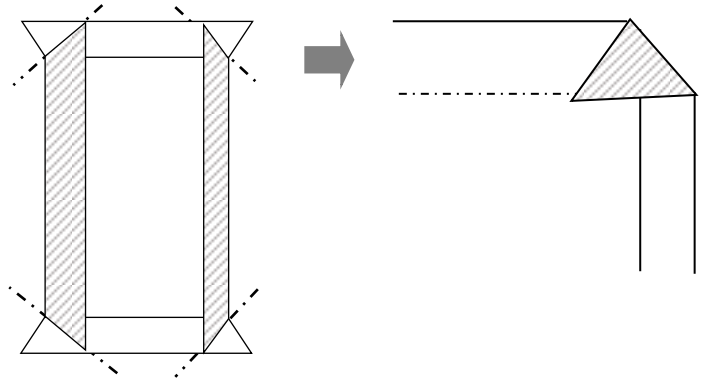
- ② 折り込み部分の四隅にはさみで切り込みを入れ、糊づけします。（次頁参照）



はじめに長い辺から糊づけします。



ひだりのように貼れたら、四スミの三角を内側に
たおして貼ります。

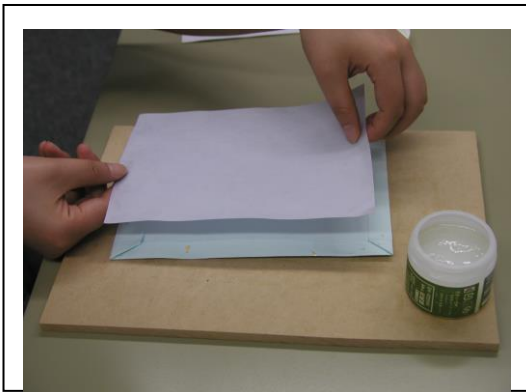
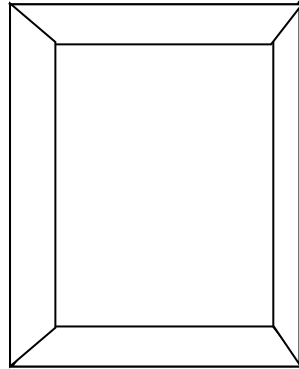


四スミの三角が貼れたら、天と地も糊づけします。

※型紙と大きさが合っているか確認しましょう。



=



③見返し用の紙を、表紙のウラに糊づけします。

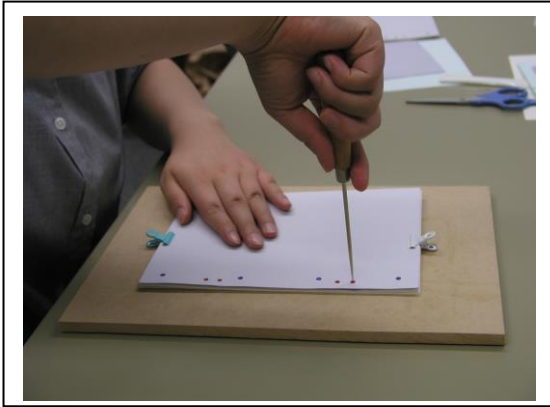
※糊は端の方にだけつけます。

全面にべっとりととはつけません。

○表紙はオモテとウラと2枚必要です（つくり方は同じ）。

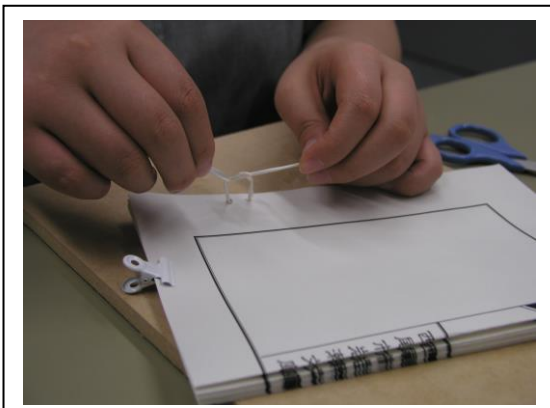
○糊をつけすぎないように注意しましょう。表紙が波打ってしまいます。

IV. 中綴じをしよう

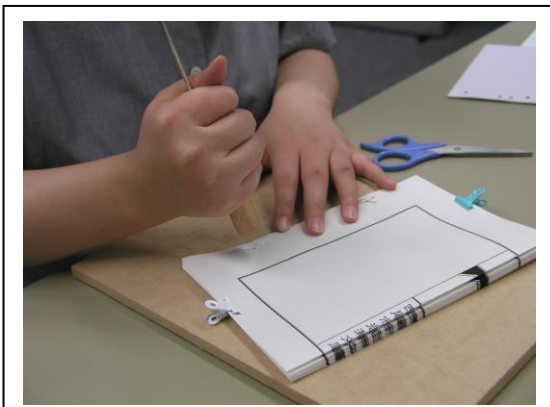


- ① 半分に折った本紙を束ね、型紙とそろえてクリップで2箇所をとめます。型紙の赤い穴（中綴じ用の穴）にあわせ、天の方2箇所・地の方2箇所、合計4つの穴を千枚通しであけます。

※穴をあけるのはのど（折り目でない方）の側ですよ！



- ② 紙縫（紙をよじて作るひも）を適度な長さに切って、2本用意します。型紙をはずし、紙縫で天の穴と地の穴に、それぞれオモテ側から通してウラ側で固結びにします。



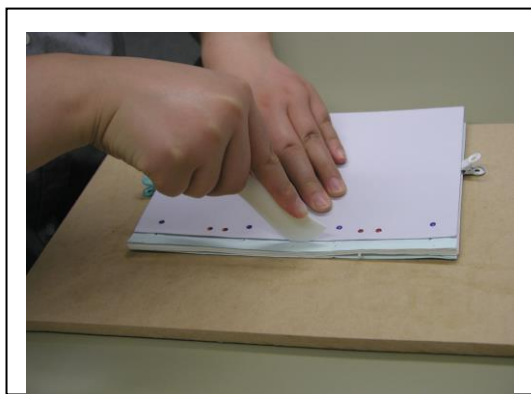
- ③ はさみで紙縫のよぶんな部分を切り、千枚通しのお尻で結び目を軽くたたきます。

○中綴じの結び目は、たたかれることによって紙縫が広がり、穴をふさぐ役目は果たします。また、ほどけにくくなります。

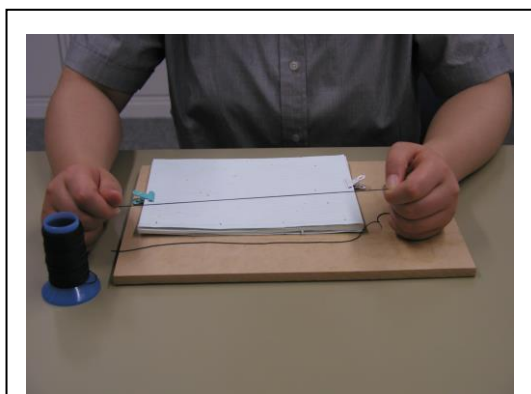
○結び目は完成したときに、本のウラ側になるよう注意しましょう。

○次はいよいよ本を綴じますよ！

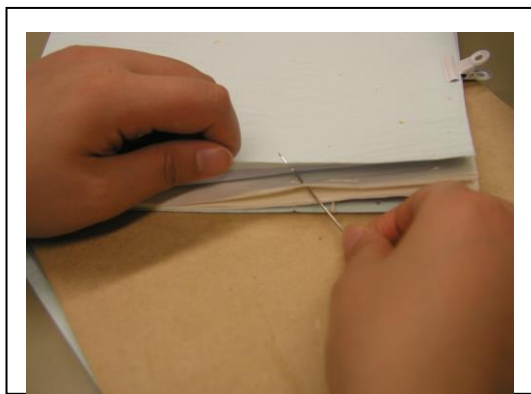
V. 本を綴じよう



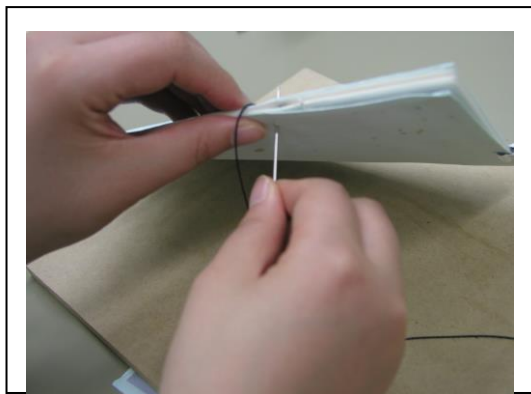
- ① 下から順にウラ表紙、中綴じをした本紙、表紙、その上に型紙を重ねてクリップでとめ、型紙の青い穴（製本用の穴）に、あわせて4箇所の穴を千枚通しであけます。
穴があいたら、型紙だけをはずしてもう一度クリップでとめておきます。



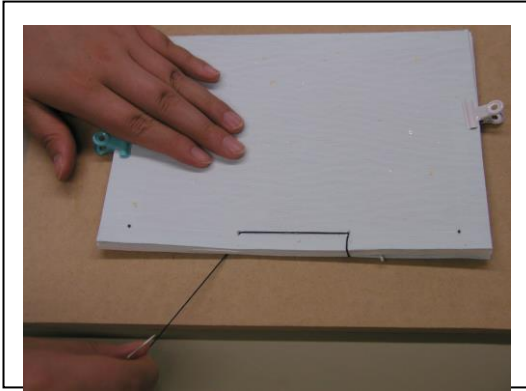
- ② 針に糸を通します。結び目をつくります。
※針は刺しゅう針や製本針、縫い針で。
※糸は刺しゅう糸やボタンつけ糸なども可。



- ③ 針を、上から2番目の穴の背の内側（本紙の3枚目くらい）から入れ、表紙の2番目の穴を通してオモテ側に出します。
（結び目をつくった糸を止めるため）

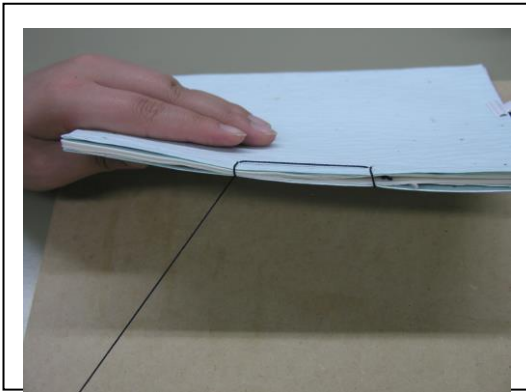


- ④ 本の背を一回りして、同じ穴のウラからオモテに向かって糸を通します。
※穴に針を通すとき、すでに通してある糸を割らないように注意！

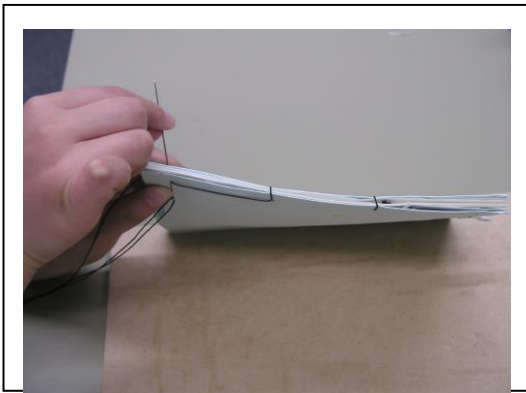


⑤オモテに抜けた糸を、すぐ下の穴に向かって下ろします。

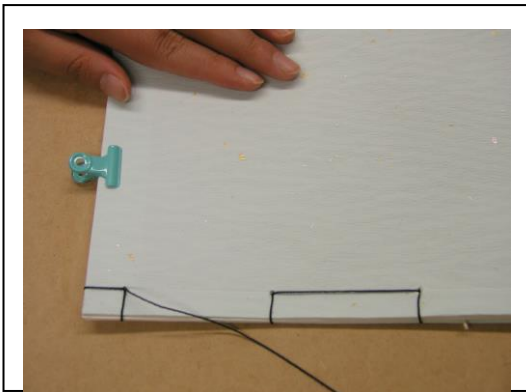
※糸がたるんでしまわないよう、引っ張りながら！



⑥ウラへ抜けた糸を、背を一回りしてまたオモテからウラへ通します。

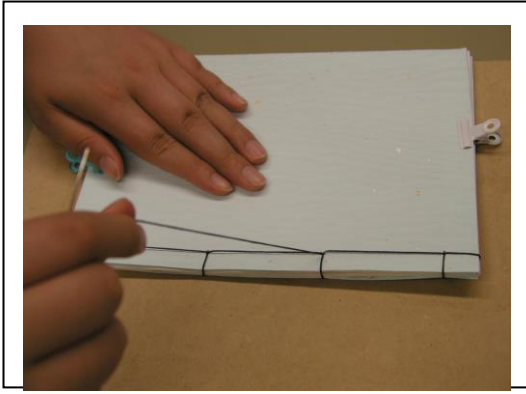


⑦ウラに出てきた糸を、その下の穴に向かって下ろし、同じように背を一回りさせてオモテへ通します。

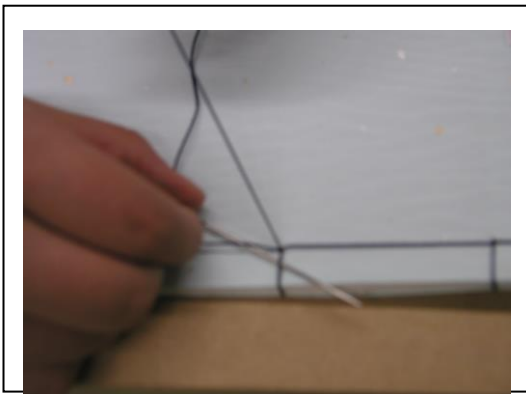


⑧今度は地の部分を一回りさせて、ウラからオモテへ通します。

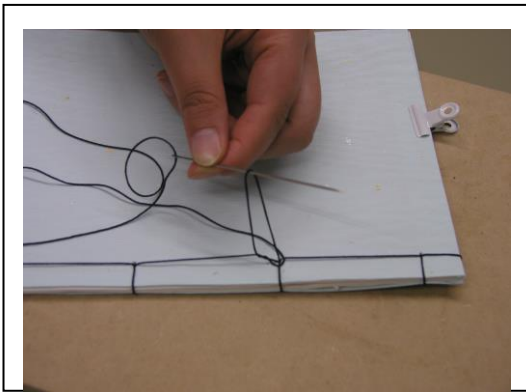
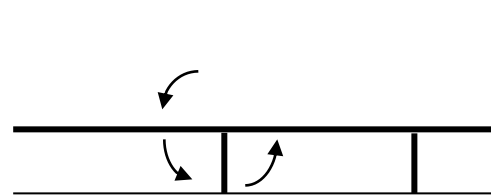
⑨このあとは、上の方向へ、糸の通っていないところをめざして、同じように繰り返して糸を通してゆきます。天の部分を一回りさせるのを忘れなく！



- ⑩ ^{てん}天の部分を一回りさせてウラへ出た糸を、また下^{した}の穴へ通し、オモテへ抜きます。
 ※これで最初の位置に糸が戻ってきました。



- ⑪ この穴から3方向に伸びている、前に通したタテ横^{よこ}の糸すべてに針をくぐらせます。



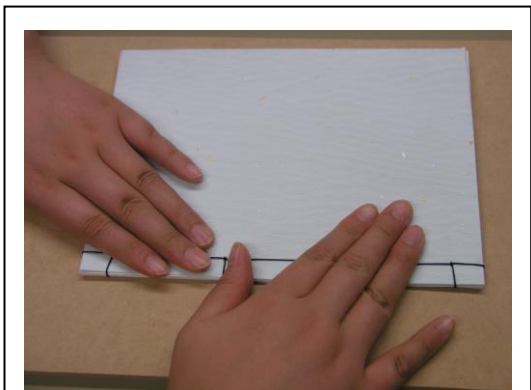
- ⑫ できた糸の輪っかに針を通し、穴のあたりを指で^{ゆび}お^{あな}押さえ、糸を引っぱります。
 これで糸が結べました。
 ※途中で指をはなすと、糸がゆるんだり、へんなところに結び目ができてしまうのでご注意。



- ⑬ 糸の始末をしましょう。
 糸が出ている穴に針を通し、ウラ側へ糸を抜き、その糸を強めに引っぱったまま、穴ぎりぎりのところで切ります。
 引っぱられていた糸が戻り、切れ端が穴の中へかくれましたね。

○これで本が綴じられました。いよいよ仕上げです。

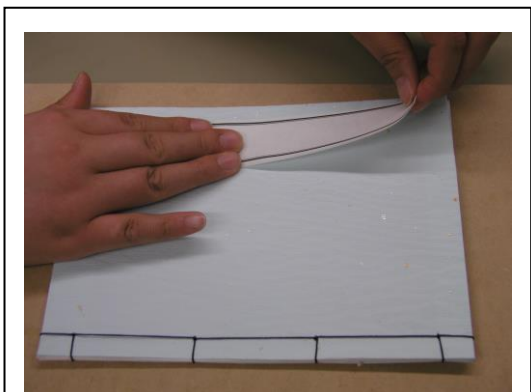
VI. 仕上げをしよう



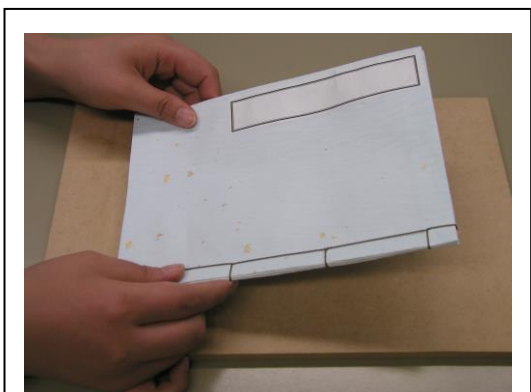
① 糸と本をなじませるように、軽く指で押しながら
かたち ととの
形を整えます。

※天や地、背の部分を一回りさせた糸が
なな
斜めになっていませんか？

まっすぐに直してやりましょう。



② 題箋を本の左肩に糊づけします。



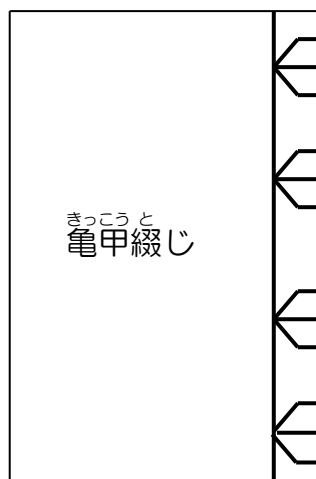
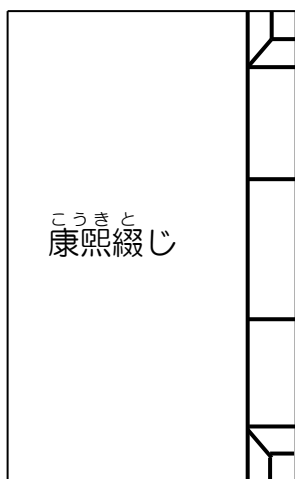
③ おめでとう！完成です！！

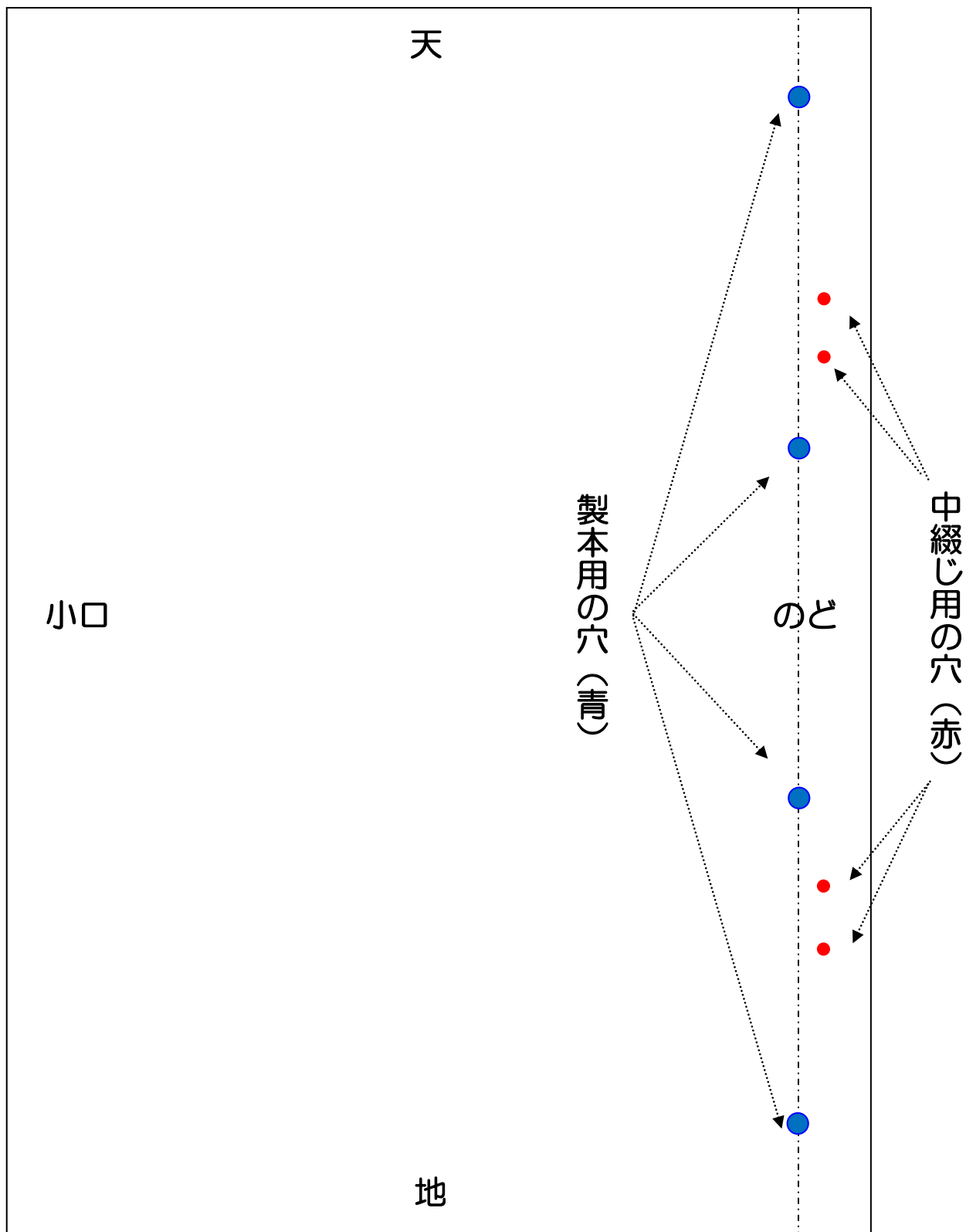
さあ、これで四つ目綴じの本の作りかたをマスター
できました。

かみ おお
紙の大きさや模様、糸の色などはお好み次第。

センスを凝らして、ぜひあなただけのオリジナル本を
つくっててくださいね。

○綴じ方のヴァリエーション





○補足

※とじ穴の間隔は1 : 3 : 3 : 3 : 1

※糸の長さはタテの長さの3倍より少し長いくらい

これを守れば、型紙の大きさを変えてもバランスよく和装本を作ることができます！